

広報

第938号

# いながわ

10月  
平成29年



望遠鏡つくったよ!何が見えるかな?(第16回いながわ星まつり)

## 特集 里山に包まれて

- いながわ100万歩チャレンジ! ○ 10
- 猪名川町の実は…え!?ホンマ!?  
心配ごと相談 ○ 19
- いながわの星空 ペガス座 ○ 25
- 瞬(ときめき) 横山 友哉さん ○ 26
- 私のオススメ☆ 県立奥猪名健康の郷 ○ 27
- 特派員報告 大人も楽しめる! B&G海洋センター ○ 28



秋ですね 稲穂にとまる 赤とんぼ(笹尾)

# ナラガレと ダイバクヌギ

## 山に巣食う脅威

夏の緑の山の中、紅葉したように真っ赤な木。これは近年全国各地で猛威を振るう「ナラ枯れ」の被害にあった木なんです。ナラ枯れはナラ類の木を枯らす原因となる菌を持つカシノナガキフイムシが大量に侵入し、木が枯死する病気です。枯れた木は葉が赤茶色に変色し、数年で枝が落ちたり倒木するおそれがあります。

町では、町有林などで被害が確認された場合、被害の拡大を防ぐため、伐倒駆除などの対策をしています。



## 木は何度でもよみがえる

育ちすぎて老いた木は、ナラ枯れなどの病気にかかりやすくなったり、切った後の再生能力が低下し、枯れる場合があります。木は若いうちに切れば何度でも再生します。

## 里山の象徴

クヌギは薪や炭の材木、しいたけの原木となります。約10年周期で幹を切れば、幹が再生します。切り株は切られるたびに徐々に太く育つので、何度でも同じ部分を切られた幹は台のように変形します。これが「台場クヌギ」です。立派に膨らんだ台場クヌギは、長い時を人と共生してきた里山の象徴です。

しかし近年では、急増した鹿に新芽が食べられ、木が再生せず枯れてしまうケースが増えています。



# 里山に包まれて

町域の8割が山林として残る、自然豊かな猪名川町。昔ながらの里山はその美しさで訪れる人を迎えるだけでなく、そこに住む人を守る役割も担っています。今回の特集では、里山の秘密と里山を取り巻く猪名川町の取り組みを紹介します。  
▶問合せ 産業観光課 (☎ 766 - 8709)

## 里山とは？

里山とは、人里近くにあり生活のために利用されてきた山や森林を指します。里山は、薪や炭などを生産するために人の手によって生み出されたものであり、昔から人々にさまざまな恩恵を与えてきました。また、里山は学習の場や憩いの場として人々に癒しと自然の大切さを教えてくれる存在でもあります。近年では、林業の衰退やライフスタイルの変化によって、人々は山から遠ざかるようになりました。美しい里山は手入れをしないと、単調でうっそうとした山になってしまいます。

## 生命を育み守る

生い茂った木をきちんと切れば山林全体に日光が行きわたり、植物が良く育ちます。植物が育てば、それを食べる虫や動物が増えます。多様な生物が生息する場所として、里山はとても重要な存在です。また、日光をよく浴びた木は地面にしっかりと根を張ります。根が張り巡らされた地面は雨に強く、私たちが土砂崩れから守ってくれます。

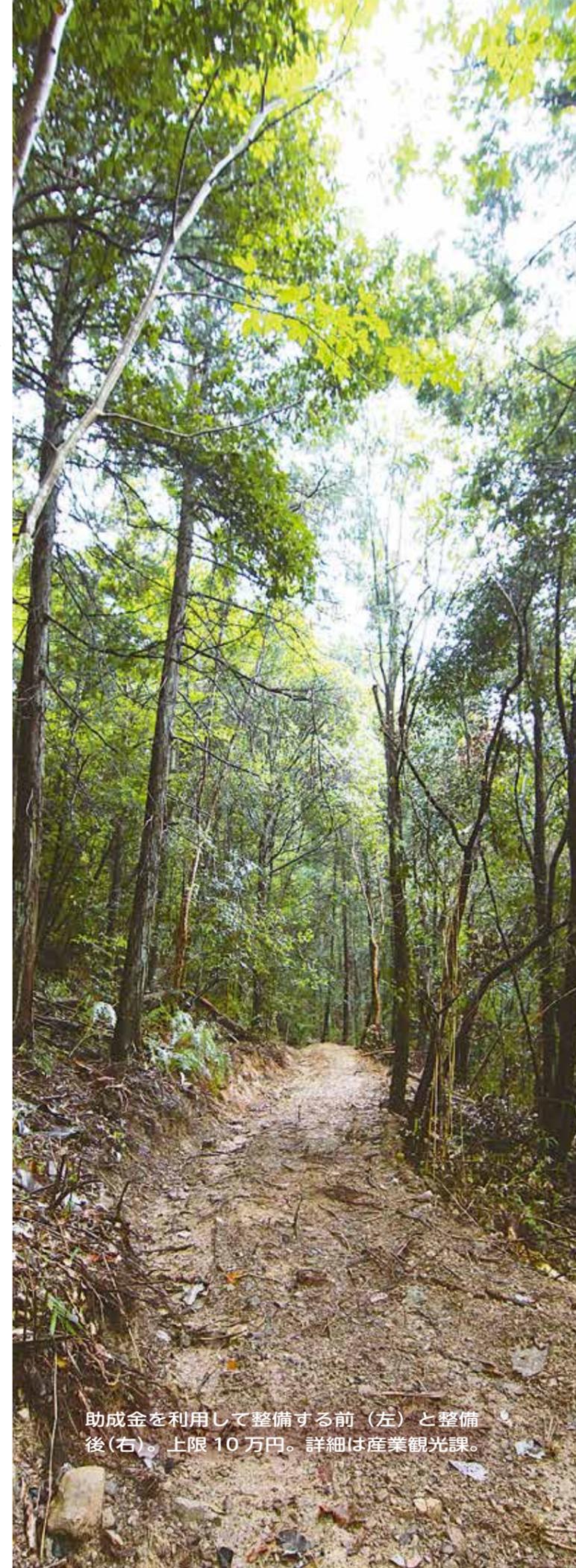
## 人と獣の境界

山林には鹿や猪などの野生動物が生息しています。近年では農地や住宅地にも出没し、農作物などに被害が出ています。里山が荒廃することで人里と山林が接してしまい、野生動物が人の生活圏に侵入しやすくなっているためです。手入れをされた里山は見通しが良く、山林と人里との緩衝帯となつて様々な獣害から私たちを守ってくれます。

## 里山と生きるまち

町では、里山を後世に残すため「里山再生基本構想および実行プログラム」を策定しています。町とまちの皆さんが協力できる仕組みを作り、ともに豊かな里山を守る取り組みを行っています。

台場クヌギ



助成金を利用して整備する前（左）と整備後（右）。上限10万円。詳細は産業観光課。

# 里山に続く道

美しい里山の再生にはたくさんの試行錯誤があります。ここでは町や住民団体が取り組んでいる事業をいくつか紹介します。

切り開け、

美しい里山に至る道

切った木を薪や炭、しいたけの原木などに活用するためには、山から持ち出さなければなりません。そのためには、人だけでなく自動車や運搬車が入ることが出来る道が必要となります。大地に広がった根が幹に栄養を運ぶように、整備された道が張り巡らされることで切った木を効率的に運びだし、活用していくことが可能になります。

町では、山林で伐採を行うための道を新しく作ったり、すでにある道を広げる費用の一部を助成しています。

竹を活かし、竹と共生する

タケノコを食べたり、竹細工の製品に加工されたりと暮らしの中でもなじみ深い「竹」。竹林もまた、日本の里山の景観を織りなす大切な植生の一つです。しかし、管理されていない竹林は景観を損なうだけでなく、山林や農地に侵入し、拡大していきます。竹林内は暗く、ほかの植物は

育ちにくくなります。

町シルバー人材センターでは、竹が生え過ぎて荒れた林をきれいに整備する竹林伐採事業を実施しています。

伐採された竹は、竹細工として加工販売されたり、雑草を抑えるための竹チップとして再利用されます。

竹を伐採して暮らしの中で活用する営みは、まさに人と里山とが共生する一つの形といえます。

▽竹林伐採の問合せ 町シルバー人材センター ☎766・8686



◀植林開始直後の様子



順調に成長した松林▶



現在も松林の手入れを続けるボランティアの皆さん

元気な松林を取り戻せ

かつて本町は赤松に囲まれたまちで、秋にはマツタケが採れる山があちこちに点在していました。しかし昭和40年以降、松くい虫の発生により町内各地で松枯れの被害が発生したことや、林業の衰退に伴い松林も荒廃していきま

町では、平成15年から松茸山再生事業を実施しており、松くい虫に強い品種として改良された「ひょうご元気松」を植林しました。マツタケが採れる松茸山を再生するため、「松茸山再生ボランティア」の皆さんと研究者が毎年集まって手入れをしています。

現在、この取り組みによるマツタケの発生は見られませんが、かつての松茸山の再生のために取り組み続けています。

## 参加者募集中！ 松茸山再生ボランティア

現在は松がしっかり育つように下草刈りや間伐作業を中心に活動。詳細は産業観光課。

- 毎月第3日曜日
- 午前10時～
- 広根・銀山地域近辺



「自然を愛する気持ちがあれば山はきれいになるんです」と語る  
町森林組合代表理事組合長 仲井 常雄さん

里山を維持する秘訣は、

創意工夫と地産地消！

仲井 昔々は林業はもつと盛んでした。今は外国の木材なんかがどんどん輸入されるので、木を切ることにしてお金になりにくいんです。植林して山を手入れしようとしても、鹿が新芽を食べて生えなくなったり、苦労はいろいろありますよ。でも、私たちは山が好きなんです。町もいろいろな事業で里山整備を支えてくれてますし、私たちも工夫を重ねて山をきれいにしようとして頑張ってます。

今秋からの販売に向けてペレット工場ですトープの燃料になるペレットを製造しています（フページ参照）。火を見ながらストーブの前に座れば、気持ちがあがって体が芯から暖まるのでお勧めします。

また、伐採した木を品質に応じて薪や炭にしたり、しいたけの原木として販売したりはもちろん、中学校の生徒さんに薪割りなどの体験に来てもらったり、町外の人に山林を貸し出して薪づくりやキャンプに使ってもらったりすることで山が手入れされるような取り組みも行っていきます。

猪名川町は8割が山林で、景観もとても素晴らしい。人の手が入れば山はおのずかきれいになります。そのためには、地域の木材を地域で消費する「地産地消」が大事です。そうだと、ご家庭でしいたけの原木を買ってしいたけを栽培しませんか？安全で健康にもよくて、とてもおいしいんですよ。



炎が灯ると、懐かしさ

若葉在住 上田さん夫妻

ペレットストーブは我が家の顔のような存在ですね。親戚が集まると、必ずストーブの前で写真を撮るんです。使い心地も良いですね。部屋全体がほっこり暖かくて、自然に対流が起きて暖かくなるので、風も感じなくて快適です。夜消しても、朝まで少し暖かい気がします。

炎を見ていると、子どものころに焚火に当たった時のような懐かしさを感じます。ただそこにいるだけで心が豊かになっていくんです。



◀▲乾燥した木材を粉碎し、さらに乾燥させる  
▼粉末状の木材をペレタイザーでペレットに加工し、保管する



# ストーブと過ごす冬

揺らめく炎、温かい空気、癒しの空間。これから訪れる冬はストーブで過ごしませんか？町では、ペレットストーブ、薪ストーブの購入と設置をサポートします。

## ペレットって、なに？

ペレット（木質ペレット）は、切り出した木材を細かく砕き、それを圧縮して固形にした燃料です（上段写真左下）。木材のみを材料とした天然の燃料なので、人体にやさしいエネルギーとして注目を集めています。

ペレットストーブは電気を利用しているため、手軽に温度調節できます。また、薪と

比べてペレットは細かく分けて置けるので、省スペースで保管が簡単です。

## 温暖化防止と里山保全

地球温暖化の原因は温室効果の高い二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の増加が主な原因といわれています。CO<sub>2</sub>は動物の呼吸やものが燃えるときなどに発生します。地中から採掘される石油などの化石燃料を燃焼する場合と異なり、ペレットや薪などの木質燃料が発するCO<sub>2</sub>は、もともと大気中に含まれていたCO<sub>2</sub>を樹木が光合成によって吸収したものです。樹木の伐採後に森林が再び育てば、その成長の過程で再び樹木に吸収

されることとなります。木質燃料の燃焼は、樹木と大気の間をCO<sub>2</sub>が循環するだけなので、化石燃料の代わりに木質燃料を使うことは温暖化の防止につながるのです。また、木質燃料を使う機会が増えることは、木材の伐採を促します。適度な伐採は山をよみがえらせ、再生と活用を繰り返していくことが可能となります。

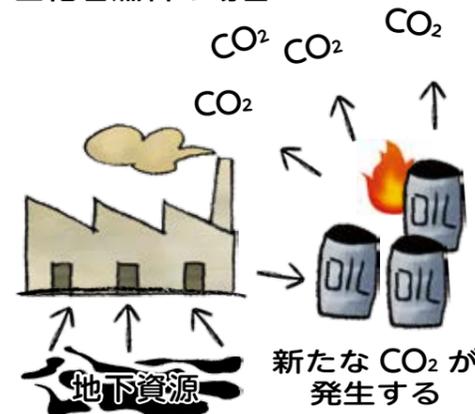
## 最大10万円の助成

薪・ペレットストーブの購入・設置の際は、費用の3分の1、最大10万円の助成を行っています。詳しくはこちら↓

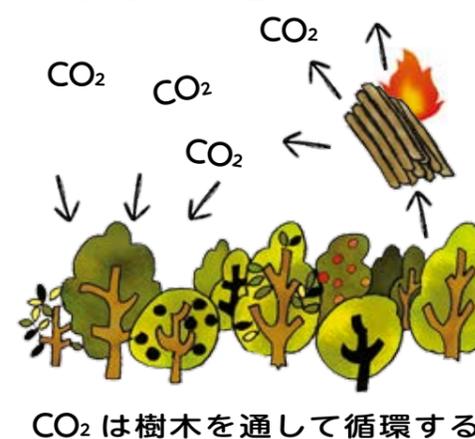


## CO<sub>2</sub>の発生と吸収

### ■化石燃料の場合



### ■木質燃料の場合



## ペレット製造施設、稼働！

本町では、木質資源の地産地消をめざし、ペレット製造施設を整備しました。施設の運営は町内の森林整備を行う町森林組合が担い、今秋11月ごろから製造したペレットの販売を開始する予定です。

### 町内循環システムの構築

現在、町内公共施設ではペレットストーブをモデル設置しています。また、役場本庁舎では暖房設備をペレットボイラーに切り替える工事を行っています。住民利用の促進も

## 稼働！

ふまえると、年間約35トンを町内で消費する見込みです。これまでは、町内で伐採した木材は町外でペレットに加工していましたが、町内に製造施設を設置することで、町内で伐採から消費までのサイクルが構築されます。

### ペレットが里山をいっしょに

35トンのペレットを製造するために、約70トンの木材が必要になります。木材は製造施設を運営している町森林組合が買い取ります。

町内の木材の需要が増えれば、町内の山林の伐採が盛んになります。製造施設は町の林業経済を循環させるだけでなく、荒廃した山林を再び人の手が入った里山に戻すことにつながるのです。

▽販売所 ペレット製造施設（槻並字姫ヶ尾）

▽価格 1袋（10kg）あたり648円※配送は送料別途

▽問合せ 町森林組合（☎766・3026）



## 里山はまちの財産

橋本 緑豊かな本町では、町域の約8割が山林です。その多くは民有林で、管理は土地の所有者が行うこととなります。しかし、長年放置されて荒れた山林を里山として再生し、さらに維持していくためには多くの労力と時間が必要となります。本町の里山の取り組みは、こうした管理が難しい個人所有の山林を、住民共有の財産であると考え、町の誇れる資源として活用していくこととするものです。

現代では柴を刈り、薪や炭を作り、といった生活はもはや珍しくなっています。皆がこうした生活に戻ることはできません。ですが、少しでも町の山林が豊かで美りのある里山になるよう支援を続け、山林の価値を回復させていくように今後も皆さんとともに努力していきます。



地域振興部 橋本 佳之部長

# 2018 (第45回) 猪名川町彫刻の道マラソン大会 平成30年2月11日

ところ 松尾台小学校  
(スタート・ゴール地点)  
町道原広根線～松尾台周辺コース

## 参加者募集!

大会協力員(ボランティア) 協賛者も同時募集!

種目	対象	参加費
マラソン	10km 高校生以上	3,000円
	3km 小学4年生以上	高校生以上 2,000円 小・中学生 1,000円
	2km 小学1年生以上	
ファミリースタンプラリー	ファミリー 2人以上	1ファミリー 1,000円
小学生駅伝	小学4～6年生	1チーム 4,000円

▶**申込** 役場、日生住民センター、ふらっと六瀬、中央公民館、主な体育施設設置の申込書に必要事項を記入し、10月2日～12月25日に郵便局で参加費を払い込む ※インターネット申込(上表マラソンのみ)の場合、別途エントリー手数料 205円  
▶**問合せ** 参加=(株)ファインシステム(☎079-420-6663)、その他=同大会事務局(☎766-8783)



# 復興への架け橋

～宮城県山元町から～ No.2  
宮城県山元町派遣 児玉 加奈子  
(猪名川町企画総務部総務課 主査)

先日、地元の方に宮城県南部の郷土料理「はらこめし」を振る舞っていただきました。鮭の煮汁で炊いたご飯に、鮭とイクラを乗せて味わうはらこめしは、旬の秋鮭の美味しさが丸ごと楽しめるこの地域ならではの料理です。毎年この時期は、町内の漁港でも多くの秋鮭が水揚げされ、とても賑わっています。山元町はいちご・りんご・ホッキ貝など多くの特産品があります。なかでも東北有数のいちご産地であった山元町は、東

日本大震災の津波により、沿岸部の農地が壊滅的な被害を受け、町内でいちごを生産していた129戸の農家のうち125戸の農家が被災しました。52戸の農家が営農再開を希望し、復興交付金を活用した大規模ないちご団地が整備され、震災から3年後の平成26年11月に本格的に出荷を再開しました。今年度のいちご生産量は震災前の1,400tまで回復する見込みで、山元町のブランド「仙台いちご」の復興が進んでいます。

また、被災した沿岸部の農地では大規模な区画整備が行われ、53戸の被災農家が設立した農業生産法人「(株)やまもとファームみらい野」が120haを集積し、長ねぎ、たまねぎ、さつまいもなどの露地野菜を中



▲復興創生トマト出荷式の様子(山元町齋藤町長・左側)

心に生産しています。今年3月には、7,700㎡のトマト用園芸ハウスが整備され、今年5月に「復興創生トマト」として初出荷されました。復興に向け想いを込めて栽培されたこの復興トマトは年間300tの生産を見込んでおり、今後更なる地域農業の活性化が期待されています。

町の復興とともに山元町の特産品も元気を取り戻し、今後さらにパワーアップしていきます。みなさんもぜひ、山元町の味覚を味わってみたいですね。



はらこめし 仙台いちご



「仙台いちご」美味しいよ♡(児玉)

## 観光ボランティアガイドの会 10周年特別企画!

# いながわ 名所八景 パスツアー

町観光協会が主体となり、皆さんからのご意見を募り、まちの皆さんが選んだ自慢の8つのスポットです!

- ①大野山** 阪神地域最高峰の山(標高753m)。天文台をはじめ、大阪の市街地や瀬戸内海まで見渡すことができる眺望や夜景、キャンプ、初夏には満開のあじさいなどが楽しめる。
- ②多田銀銅山遺跡(国史跡)** 江戸時代に幕府の直轄鉱山としてにぎわいをみせた。銀山地区の町並みや、坑道内を見学できる青木間歩から、歴史ロマンを感じられる。
- ③ふるさと館周辺** 奈良時代、川辺郡楊津郷といわれた地域で、近くには行基が開いた「楊津院」の後身と伝えられる天澤寺もある。ふるさと館裏の芝生公園などでは四季折々の自然を満喫することができる。
- ④いなな!!ざくら通り** 町道原広根線の約2.3kmの区間に植えられた、

▼**とき** 11月23日(木・祝)  
▼**時間** 午前9時30分～午後4時  
※雨天時は別ルート  
▼**コース** 日生中央駅→役場→道の駅いながわ→景福寺→大野山(昼食)→ふるさと館→役場→日生中央駅  
▼**乗降場所** 日生中央駅 午前9時15分集合、午後4時ごろ解散、役場 午前9時30分集合、午後3時45分ごろ解散

約600本のソメイヨシノ。春には桜の名所として、「いながわ桜まつり」が開催される。

- ⑤戸隠神社(国指定重要文化財)** 本殿は大永4年(1524年)に造営された町内最古の建築物。すぐそばには町指定文化財のモミの巨木があり、静寂な空間がひろがる。
- ⑥静思館(国登録有形文化財・ひょうご住宅百選)** 昭和7年(1932年)から3年の歳月をかけて建築された茅葺屋根の建物で、建造物の随所に和洋の贅が尽くされている。
- ⑦猪名川溪谷ライン** 県道12号線川西篠山線のうち、猪名川町と篠山市境から川西市176号線との交差点までの約32.8kmの区間の愛称。町北部の区間では、里山・清流猪名川を感じられる。
- ⑧歴史街道** 主に、清流猪名川沿いと多田銀銅山を巡るコースになっており、街道沿いの地名の由来にまつわる話に、明智光秀の娘「佐保姫」の伝説がある。

▼**定員** 20人(多数抽選※当選者のみに案内文書発送)  
▼**参加費** 1,200円(弁当・保険代など) ※当日徴収  
▼**持ち物** 水筒・ぼうし・長そでシャツ・歩きやすい服装  
▼**申込・問合せ** 10月20日(必着)までに参加者氏名・年齢・性別・住所・連絡先・乗降場所を電話・メール・郵送にて産業観光課(☎766.8709)



①大野山



②多田銀銅山遺跡



③ふるさと館周辺



④いなな!!ざくら通り



名所八景 MAP

※今回のツアーでは、①③⑦を見学します(⑦は車窓のみ)

行って! 見て! 体感して!  
おススメスポット 巡りましょ♪



⑧歴史街道



⑦猪名川溪谷ライン



⑤戸隠神社



⑥静思館

# 開通前の 高速道路を 歩こう！



**かわにしインターフェスタ  
新名神高速道路  
部分開通プレイベント**

▽とき 10月14日(土) 午前10時〜午後2時30分

▽ところ 新名神高速道路川西インターチェンジ

▽オープニングセレモニー 午前10時〜(川西市西畦野地区)

▽ステージエリア オープン記念演奏(猪名川中学校吹奏楽部・ダブルダッチ(両道館))

▽出店エリア 市町の特産品やグルメ、地元野菜などの販売、炊き出しの無料配布、パトカー・白バイの展示、こども隊員服体験、消防車・救急車の展示、こども消防服体験

▽熱気球 新名神高速道路を空中から見学  
参加費2千円(要予約)

※詳細はホームページより

▽その他 ランニングバイク試乗体験、ウォーキングの開催、子どもの絵の展示

▽アクセス 阪急バス「石道口」下車徒歩15分、能勢電鉄「畦野」下車徒歩25分(東畦野交差点からシャトルバス運行※有料100円)

▽問合せ 都市政策課(☎76・8715)

## 宝塚北 SA



## 川西 IC



## 気になる まちの今

いよいよ開通間近の新名神高速道路。今回は、猪名川町を飛び出して「川西インターチェンジ(IC)」と「宝塚北サービスエリア(SA)」を紹介いたします。

川西ICは本町南端すぐの川西市西畦野地区に建設中。出入口それぞれに、一般・ETC専用レーンが1レーンずつ設置されます。

宝塚北SAは本町猪名地区を抜け、西に進んだ宝塚市内に建設中。西日本最大級の敷地面積にオシャレな外観の建物特徴です。ドッグランやイベント用の広場もあり、屋内では有名飲食店が営業予定。SAにはスマートインター(S-IC)・ETC専用出入口も併設されます。

「川西IC」「宝塚北SA」とも、町内から近く、行き先に応じた使い分けもでき、交通の便がますます良くなると期待大！

10月には、開通前にICや高速道路を見学できる「川西インターフェスタ 新名神高速道路部分開通プレイベント」を実施する予定です！

## 注意！ 町内で交通事故多発！

～秋から冬にかけてはますます危険～

最近、町内での交通事故が増えています。秋から冬にかけ、交通事故の起因となりやすい薄暮の時間帯が長くなり、ますます事故が起こりやすくなります。

自動車に限らず自転車や歩行者も特に注意が必要です。運転手・歩行者ともに慣れた道でも細心の注意を払い、夕暮れ時や夜間の運転は早めのライト点灯を。また、歩行者は明るい服装や夜光反射材を身に着けるなど、それぞれが「事故を起こさない」「事故に遭わない」よう気を付けましょう。



▶ 問合せ 参画協働課 (☎ 766 - 8783)



**1位**  
1,947,534 歩  
85 歳 / 男性

**2位**  
1,739,908 歩  
63 歳 / 男性

**3位**  
1,612,052 歩  
68 歳 / 男性

【結果・9月12日現在速報値】  
報告者数 302人  
報告者歩数総数 214,380,291歩  
1人あたり平均歩数 709,868歩

## いながわ 100万歩チャレンジ!



6月4日(日)からスタートしている、「いながわ100万歩チャレンジ」は、462人がチャレンジ実施中です。3か月経過した、現在の皆さんの中間報告結果と、感想をご紹介します！

### 《参加者の声》

- ◆歩数計を付けて過ごす、自分の活動状況がよくわかります。
- ◆このチャレンジをしたことで、家でダラダラしていたのが、なるべく外出しようと思うようになりました。
- ◆ウォーキングマップを参考に、ふれあいバスに乗って町内各地へ行き、歩いていきます。各コースの特徴をチェックしたり、季節の移り変わりや地域の人のふれあいを楽しんでいます。
- ◆近くの公園で、一緒に歩く友達が増えました。
- ◆膝に負担をかけないように、アスファルト舗装をした道路ではなく、公園内を歩いています。
- ◆暑い夏を、少しでも快適に歩けたらいいな。
- ◆美しい棚田の景色を見ながら美味しい空気を胸いっぱい吸って歩くと、とても体にいいです。150万歩目指して頑張ります。
- ◆1日平均1万6千歩。半年で30万歩が目標です！

### 《最終報告も忘れずに！》

6月4日〜11月30日までの歩数の合計を、「歩数記録手帳」に添付の最終報告書に記入し、提出してください。

▼報告期間 12月1〜8日

### 《結果発表会》

平成30年1月20日(土)に、皆さんからの最終報告の結果を発表します！

詳細は、後日、参加者あてにお知らせします。

### 《最後まで頑張ってください！》

「いながわ100万歩チャレンジ」は、11月30日まで続きます。参加者の皆さん、体調管理に気をつけて、無理のない範囲でチャレンジを続けてください。

▼問合せ・結果報告 保健センター(☎766・1000、☎766・4414)

